福生市介護保険事業計画（第７期）における介護予防・自立支援等の取組と目標及び評価

第７期介護保険事業計画に記載の内容				令和2年度（年度末実績）			
区分	現状と課題	第7期における 具体的な取組	目標 （事業内容、指標等）	実施内容	自己評価結果	課題の解決に向けた質の評価	課題と対応策
自立支援・介護予防・重度化防止	高齢化が急速に進行する中、高齢者が地域で元気に暮らしていけるよう、地域による介護予防活動の推進が必要である。	介護予防に関する正しい知識を普及啓発し、活動を広めていくために、介護予防リーダー養成講座を実施して介護予防リーダーを増やす。これによりリーダー同士のつながりができ、活動が活性化することで健康長寿のまちを目指す。	介護予防リーダー養成人数 平成29年度：15人（実績） →　令和2年度：60人	介護予防に関する正しい知識の普及啓発と活動を広めるために、介護予防リーダー養成講座を実施し、介護予防リーダーを増やした。また、卒業生のフォロー講座や連絡会を行い、介護予防リーダーの活動を支援した。 （令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言を受け、フォロー講座については回数を減らして実施した。）	自己評価結果【〇】 介護予防リーダー養成人数は令和元年度まで（第1～3期生）で40人である。（修了後に何らかの事情で活動できない方、転出した方など数名あり） 　令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、様々な事業が中止になる中、高齢者の介護予防のために必要と判断し、介護予防リーダー養成講座を開講した。コロナ禍に7名の受講者が第4期生として講座を修了し、1期生～4期生までの45名のうち31名が連絡会等に参加し、各地域で介護予防活動実践している。 数値目標の養成者数に掲げていた60名には満たないものの、介護予防リーダーの活動状況から、第7期計画に挙げた取組が行えたと考える。	新型コロナ感染症の蔓延により高齢者の介護予防では従来行えていた活動が行えず、感染予防に留意しながらも介護予防活動は積極的に行っていかなくてはならない状況であった。今後もそうした状況が続き、介護予防リーダーのアイディア、工夫、地道な活動が重要となる。令和2年度に体験した、「感染予防しながらの公園体操」は、手探りでやってみ活動だったが、それにより参加した高齢者が喜んでくれて、リーダー自身のやりがいや健康につながっており、その実感をリーダーが得られたことが、今後につながる大きな収穫だった。	＜課題＞ 新たな介護予防リーダーの増員と自主的な介護予防活動の拡大。コロナ禍における介護予防活動の実践。 ＜対応策＞ 介護予防リーダー間で情報交換したり、リーダー同士のつながりをもつ場として合同連絡会を開催する。 フォロー講座では、リーダーの学びない内容や新しい介護予防に関する情報を盛り込んでいく。 介護予防担当は介護予防リーダーの自主活動に時々参加し共有したり、活動についての相談にのっていく。
給付適正化	利用者の生活に大きく影響するケアプランが、本来の目的である自立支援に資する適切なケアプランなるよう、介護支援専門員の資質向上を図る必要がある。	ケアプランがケアマネジメントの過程を踏まえた適切なものであるかを介護支援専門員とともに検証確認し、健全な給付の実施を図る。	ケアプラン点検実施件数 平成28年度　1件（実績） →　令和2年度　6件	介護給付の適正化を図るため、介護支援専門員とともにケアプラン点検を行った。	自己評価結果【〇】 数値目標は令和2年度6件で、令和2年度は2件であった。新型コロナウイルス感染症の影響がなければさらに行う予定だったこと、点検を行った介護支援専門員のケアマネジメントの再確認や、気づきにつながったことも含め、数値目標達成とする。	都のケアマネジメントの質の向上研修会を修了している介護支援専門員に対してケアプラン点検を計画的に行っているところである。点検を行った介護支援専門員からは、ケアプランの本来の目的や意義についての再確認や、市職員（介護支援専門員の資格有）の意見をきくことで気づくことも多かったとの意見をいただいている。 今後は、第8期計画に向け、更なる質の向上、また、ケアプラン点検修了者による他の介護支援専門員の人材育成につなげたい。	＜課題＞ 令和2年度の目標は達成としたが、現状のやり方では、第8期計画での更なる質の向上を考えると、最終目標の年間6件以上は職員数の問題でかなり難しい。 ＜対応策＞ 他市の実施状況を参考にして、集団によるケアプラン点検の実施や、ケアプラン点検修了者による他の介護支援専門員へのケアプラン点検等を検討する。